

### ● 中央出版株式会社 ＜ティーエムホールディングスグループ＞

# 「おとくライン」3,000回線の導入で、 年間9,500万円のコスト削減を実現

教育図書や教材の企画・開発・出版のほか、FAXを活用した通信学習指導などを展開する中央出版株式会社（以下、中央出版）。グループ内には、全国約300の拠点や約1,200の英会話教室などがあり、利用する電話回線、その通信コストも膨大です。そこで、同グループの通信環境を統括管理する株式会社ティーエムホールディングス（以下、TMホールディングス）では、通信コスト削減を目的として、「おとくライン」約3,000回線を導入。試算では、年間9,526万円ものコスト削減を達成できる見込みです。

#### ※ 課題と効果



株式会社ティーエムホールディングス  
営業管理部 営業統括総務課 課長  
**田中 守氏**



株式会社ティーエムホールディングス  
営業総務部 営業総務1課 係長  
**右手 和彦氏**



株式会社ティーエムホールディングス  
営業総務部 営業総務1課  
**岡 千春氏**



株式会社ティーエムホールディングス  
営業総務部 営業総務1課  
**吉永 明美氏**

#### 課題

全国に散らばる拠点間の電話やFAXを活用した学習指導による通信コストが肥大化。これまではマイラインを活用していましたが、より大きなコスト削減策を求めていました。

#### 効果

約3,000回線を「おとくライン」に切替え。また、「ボイスネットおとくライン」によって内線網の再整備も行った結果、試算ベースで年間9,526万円ものコスト削減を実現できました。

#### 課題

FAXによる通信学習指導が好評で、当社の中心的なビジネスへと成長しています。そのため、切替えにあたって回線の中断は許されません。もちろん、安定性と信頼性も絶対の条件でした。

#### 効果

「おとくライン」は、特別な機器の設置などは必要ないため、切替えは非常にスムーズに完了しました。もちろん、導入後の大きなトラブルもなく、品質も安定しています。

## 導入の背景

## ビジネスの拡大と共に通信コストも肥大化

独自の企画力と開発力で、オリジナリティ豊かな教育教材などを提供する中央出版。同社とグループ会社では、大型教材、PCを活用した家庭用教育システム、出版物だけでなく、英会話教室などの事業にも力を入れています。活動エリアも非常に幅広く、約300の支店・営業所、約1,200の英会話教室を、全国に展開しています。

こうしたビジネスを行う同グループにとって、電話は非常に重要な役割を担っています。各拠点間の通話はもちろん、数年前からFAXを介した通信学習指導も行っているからです。「しかし、拠点数

の増加やFAXによる通信学習指導の利用が拡大した結果、通信コストも年々肥大化していました。これまでは複数の通信事業者のマイラインを利用していましたが、より強力なコスト削減策が求められていたのです」。このように語るのは、同グループの通信環境管理を担当するTMホールディングスの田中 守氏です。

そこで、同社では、グループ全体の通信コスト最適化に取り組むことに決めたのです。

## 選択のポイント

## 安定性と信頼性、確実にコストを削減できる点を評価

通信コストの削減を目指し、TMホールディングスでは、まずIP電話の導入を検討しました。しかし、IP電話の場合、新たな機器の設置などにかかる初期投資だけでなく、大規模な工事が必要になるケースもあります。先に述べたように、電話は同グループにとって非常に重要なツール。「ですから、切替えに伴う暫定措置とはいえ、少しの間でも電話が使えなくなるという事態は回避しなければなりませんでした」と田中氏は話します。さらに、同様の背景から、ビジ

ネスの継続性を確保するためにも、通信環境には、何より安定性と信頼性が求められました。

こうした問題を解決するソリューションとして、同社が採用したのがソフトバンクテレコムの「おとくライン」です。「従来の電話サービスに比べて、確実にコストを安く抑えられるのはもちろん、IP電話のような設備や工事が不要で、切替えがスムーズに行える点も大きなポイントでした」と同社の右手 和彦氏は選定の理由を述べます。

## Case Study

# 中央出版株式会社 〈ティーエムホールディングスグループ〉

### 導入の概要と効果

## 約9,500万円のコスト削減で内部売上アップに貢献

「おとくライン」への切替え作業は、2006年9月より順次開始され、2007年4月には、全国約1,500カ所、約3,000回線の切替えを完了。移行時は、混乱を避けるため、ソフトバンクテレコムのスタッフが同社に常駐して各拠点との対応を支援しました。

また、同時に内線網の見直しも実施。「従来は、拠点間の通話もマイラインによる外線通話を用いており、そのコスト削減も大きな課題でした」と岡 千春氏は話します。そこで「おとくライン」導入開始から3カ月後には、ソフトバンクテレコムの「ボイスネットおとくライン」によって内線網の整備も行うことに決めました。これにより、全国に散らばる拠点間の通話も割安に行えるようになります。

「おとくライン」「ボイスネットおとくライン」の導入による通信コストの削減効果などを総合的に評価すると、年間で9,526万円ものコスト削減につながる計算です。田中氏は「一番の功績はコストをかけずにコストカットを実現できたこと。言い方を変えれば、内部売

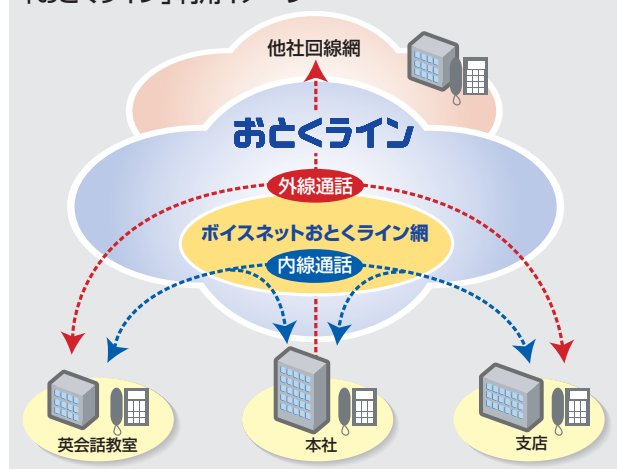
上として会社利益に貢献していることになり」と強調します。

メリットはそれだけではありません。元々、中央出版とグループ会社では、複数の通信事業者の電話サービスを利用していたため、それぞれから送られてくる請求書の仕分けをするだけでも、大変な労力がかかっていました。「それらの大半をソフトバンクテレコムに集約できただけでなく、ソフトバンクテレコムでは、部別集計した上で明細書を作成していただけるので、事務作業が大幅に効率化されました」と吉永 明美氏は言います。

### 導入したサービス

ソフトバンクテレコムの通信設備を使い、お客様同士を直接つなぐ固定電話サービス「おとくライン」。NTT交換機を経由しないため、毎月の基本料金と通話料金が割安になります。しかも、新規設備の導入は不要。従来の電話番号もそのまま利用できます。さらに中央出版とグループ会社では社内通話用に内線通話の低コスト化を実現する「ボイスネットおとくライン」を採用。2つのサービスを組み合わせることで、通信コストの削減効果を相乗的に高めています。

### 「おとくライン」利用イメージ



### 今後の展開

## 新たなビジネスモデルを実現するような提案に期待

今後、同社では一部運用を継続している他通信事業者の電話サービスも順次見直し、「おとくライン」へ移行することを考えています。これにより、今より大きなコスト削減効果を狙っているのです。一方で、将来的には携帯電話を含めて通信インフラをIP化するモバイル・セントレックスにも興味を持っていると言います。

「例えば、携帯電話を使うことで、より柔軟なスタイルでの英会話

レッスンなどが可能になるのではと考えています。また、IP化が進めば、教材との様々な連携も可能になり、新たなサービスも実現できるかもしれません。ソフトバンクテレコムには、そうした、新たなビジネスを実現できるようなサービスの提案を期待しています」と田中氏は今後の展望を述べました。

## 株式会社ティーエムホールディングス

本社：愛知県愛知郡長久手町城屋敷801番地  
設立：1973年9月  
資本金：5,042万円  
従業員数：107名

事業概要：教育図書・教材の企画・開発・制作・出版、FAXによる個別学習指導などを手がける中央出版とグループ各社の事業活動の管理、および取引会社の事務代行業務など。

URL：<http://www.chuoh.co.jp/profile/index.html>  
(中央出版オンライン)

 **中央出版**  
CHUOH PUBLISHING co.

